business 仕事の窓 report

その6〈開発建設部〉

大詰めを迎えた「沖縄都市モノレール」事業

平成13年度には、空港～赤嶺間で試験走行が始まります。（県庁前駅完成予想図）

1 はじめに

「沖縄都市モノレール」事業は、昭和四十七年のモノレール導入検討に始まり、平成八年三月の運輸事業特許の取得を経て、平成八年十一月二十六日に着工し、来る平成十五年十二月の開業予定を目前に控えインフラ工事が最盛期を迎えています。

開発建設部では、「沖縄都市モノレール」の全体計画延長十三・一㎞の内、国道三三三号那覇市赤嶺地区、国道三三九号バイパス壺川地区、国道五八号旭町～久茂地地区、合計二・三㎞の国道部工事を担当しています。昨年度までに駅舎を含むすべてのインフラ工事の発注を終え、平成十三年度中の完成へ向け工事が急ピッチで進められています。

都市の渋滞緩和を含め期待の大きい「沖縄都市モノレール」事業の工事状況やモノレールに関する知識等を御紹介いたします。

2 駅舎のバリアフリーについて

「沖縄都市モノレール」の駅舎は、身体の不自由な方やお年寄、小さな子供でも安心して利用して頂けるよう配慮した建設計画となっています。

コンコース階、プラットホーム階への昇降は、エレベーターやエスカレーターの設置を計画しています。詳細についてはホームページ等をご覧ください。

3 工事に伴う58号の交通規制について

国道五八号は道路交通の大動脈であり狭隘な空間で三車線を確保し工事を進めてきましたが、下部工事が完了し駅舎建築や上部の走行桁の架設など大規模な交通規制が必要となっています。

国道五八号の工事区間、久茂地交差点～明治橋交差点間においては五月中旬から十月末日までの間、随時夜間交通規制を予定しています。

道路利用者の皆様は、道路情報等を確認のうえ通行時には現場の誘導員の指示に従い通行していただくようご協力をお願いいたします。

工事の最盛期を迎え旭町～久茂地地区の風景が日々、変化していきます。興味のある方は夜間の大規模な架設工事等も一度見学してみてはどうでしょうか。

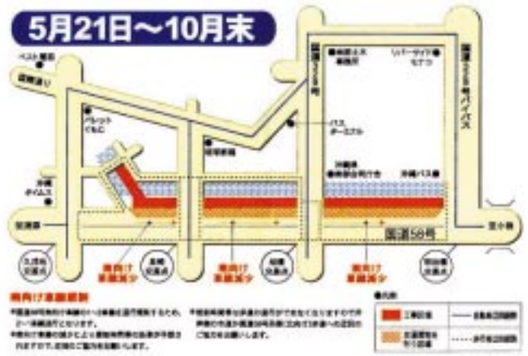
全体工事規模

	モノレール全体	開発建設部担当			
		合計	赤嶺	壺川	久茂地
支柱（本）	584	90	24	39	27
PC軌道桁（本）	991	126	32	50	44
鋼軌道桁（箇所）	51	14	3	8	3
駅舎（箇所）	15	2	0	1	1

完成間近の壺川地区

ホームページアドレス

- 沖縄県庁　http://www.pref.okinawa.jp/index-j.html
- 沖縄都市モノレール（株）　http://www.island-okinawa.com/~yui-rail/



沖縄都市モノレール事業の概要

(1)起終点：那覇空港～那覇市首里汀良町
(2)延長：建設延長/13.1km　営業延長/12.9km
(3)駅数：15駅
　那覇空港駅～赤嶺駅～小禄駅～奥武山公園駅～壺川駅～旭橋駅～県庁前駅～美栄橋駅～牧志駅～安里駅～おもろまち駅～古島駅～市立病院前駅～儀保駅～首里駅
(4)運行時間：
　(ア)所要時間/那覇空港駅～首里駅間を約27分で運行
　(イ)運行時間/ラッシュ時6.5分、
　　ラッシュ時以外7.5分～12分(早朝深夜15分)
(5)営業時間：午前6時～午後11時30分
(6)型式：跨座型
(7)運営主体：沖縄都市モノレール株式会社(第3セクター)
(8)建設費全体事業費1,081億円
　インフラ部657億円　インフラ外部424億円

沖縄都市モノレールの知識1

「沖縄都市モノレール」の完成でどんな効果があるのか

○時間短縮効果及び定時・定速性の確保

沖縄都市モノレールは、那覇空港ターミナルを始発として、首里汀良町まで十二・九キロを二十七分で走ります。都市モノレールは、路面交通の影響を受けず、定時・定速で運行できるという大きな特性を持っています。

○交通渋滞及び交通事故の減少効果

モノレールの導入は、自動車利用の転換で、道路の交通渋滞の緩和、交通事故の減少も期待できます。

○環境保全効果

モノレールは、大気汚染や騒音・振動等周辺の環境に及ぼす影響がほとんどない交通機関であり、沿線地域の環境保全に寄与します。

○大量輸送サービスの確保

都市モノレールは、ラッシュアワー等、利用者の多い時間帯は六・五分というサービス間隔で運行されます。車輌は二両編成で定員百五十八名の乗客を一度に運びます。

○有機的な交通システムの確立

主要駅には、交通結節点として交通広場を計画しており、都市モノレールを軸としてバス・タクシーなど他の交通機関と有機的に結節し各地点間の移動時間を短縮、利用客の利便性・快適性を高めます。

○沿線開発効果

駅は、交通の要であるとともに、街づくりの核にもなります。駅を中心とした周辺の整備は、豊かな街づくりをめざして計画されています。このように、モノレールの導入は、沿線地域開発整備に大きなインパクトを与え、市街地としての高度利用を促進し、地域の活性化に大きく寄与します。

沖縄都市モノレールの知識2

○「都市モノレール」とは

「都市モノレール」とは、「主として道路に架設される一本の軌道桁に跨座し、又は懸垂して走行する車両によって人又は貨物を運送する施設で、一般交通の用に供するものであって、その大部分が都市計画法第五条の規定により指定された都市計画区域内に存するもの」であり、多摩都市モノレール、千葉都市モノレール等があります。

○「沖縄都市モノレール」は、なぜ道路事業（軌道事業）なのか

沖縄都市モノレールは高架構造で地上から独立した形式となっています。モノレールの足下を見るとほとんど道路の敷地に立っています。

軌道法第二条では「軌道は、特別の理由がある場合を除き道路に敷設する」と記載されており、つまりモノレールの柱等インフラ部分が「道路」の一部として造られているのです。（簡単に言えば、道路が地上から隆起し、その上にモノレールの建設を行っていると考えれば理解しやすいのではないでしょうか。）